

## 越遊行囊抄

江間氏親著 自序に元禄九(1696年)とある。江間氏親『行囊抄』は、『南遊行囊抄』とか『陸西行囊抄』とか諸国見聞の書含むが、その内の『越遊行囊抄』に次のようにある。

葺

### 追分

自是左ニ赴カハ戸隠山ノ路ナリ  
善光寺前ニアリ行程五里ナリ

### 横澤邑

善光寺町ノ西在所ヲ云此邑ヲ過テ路ノ右ニ小社  
アリ榎福明神ト云其社中ニ槻ノ大木ヲ神木トス

其ヲ過坂アリ榎福坂ト云

管清水邑榎福坂ヲノホリテ右ニ有清水提 往生寺路ヨリ左  
ノ山ノ半腹ニミユル 七尾坂上リ五六町鞭骨坂上リ七町程  
宮坂上リ二丁程是マテ三ツノ坂上リ計ニテ下リナシ 荒安

自善光寺到  
テ此一里

里宮トテ伊繩山ノ下社道ヨリ右ノ山ノ邑ニ杉森アリ

社ハ南向ニテ三間六間半茅? (末に注) 也神主ハ仁科右近ト

云社領二百石伊繩ノ本宮ハ是ヨリ一里奥大山ノ上ニアリ末  
ニ書之荒安ノ左ノ谷ヲ越テ向ニ桂山ノ古墨近クミユル多々  
良路ヨリ左ノ道下ニアリ 和泉平路ヨリ左ニミユル 櫻邑

路ヨリ左和泉平ノ上ニミユル 此所ニムシナカ城トテ石山  
アリ 上ケ屋邑路ヨリ左ニアリ 貉ガ窪邑 丹生坂上リ十  
二三丁坂ノ上ヨリ顧ハ松城辺須坂辺ミユル同右ノ方ニ 中  
曾祢邑 北沢邑ミユル 原 丹生坂ヲ上リ過テ戸隠マテ  
ツヽキタル三里四方ハ野原ナリ此原ノ右ニ伊繩山ノ本宮ミ  
ユル大山ナリ 平淵原ノ内路ノ左ニ沼アリソレヲ云此辺ヲ  
少行テ左 頭ヲメクラセハ浅間山ニ煙ノ立ヲ遙ニミル 澤  
川小流アリ右ヨリ左へ流ル此所ヨリ幅下邑へ行路左ニアリ  
一倉池此池堅十一丁横三丁余ノ池也池中ニ嶋アリ此池ハ伊  
繩山ノ御手洗ト云

從是北ノ方ハ伊繩山ケリ左ノ方ニツキテ栃原邑鬼無里村へ  
行路アリ此路ヲシカキト云村ヘカヽリテ善光寺へ行路モア  
リ鬼無里ニハ昔平維茂鬼ヲ切タル所トテ路畔ニ鬼ノ石塔ア  
リ又虫倉ト云所<sup>近辺ニアリ</sup> 魔所ナリ鬼ノ骨トテ近キ比マテアリ  
疫神ヲコリノマシナヒニ諸方へ拾トリテ今ハナシ

日本人物史曰平維茂者真先出於桓武帝前將軍平貞盛之姪也  
貞盛狼之為子字之曰餘五將軍數策戰勲爵至將軍故俗曰余五  
將軍曾在奥州殺藤原諸任其威根東北世傳維茂入信州戸隠山

斬妖鬼云

一倉ノ池ヲ左ニ見テ野原ノ路ヲ過行ハ追分アリ左中院右ハ寶光院ト木ニ書付タルシルシアリ寶光院ヨリ中院へ出ルハ本路也

日ノ御子社 中院ノ前ニアリ

中院 中院モ寶光院モ戸隱ノ前堂ナリ

比丘尼石 中院ヨリ奥ノ院へ行右ノ路畔ニアリ女人ハ從是奥院ノ方へハ行夏不成明神ノ忌給フ故也

自此辺右ニ柏原ノ駅ニ出ル山路アリ行程二里難路ニアラス人馬自由通路ナリ

奥院自中院到于此一里左ノ方ニ巖穴アリ是戸隱神ノ住給フ所也左ノ前ニ御供所穴ノ口ニ戸ヲツケテ錠ヲヲロシテアリ前ニ九頭竜権

現ト札立テアリ

寶光院ヨリ中院中院ヨリ奥院へ詣ルカ順也

別當勸修院ト云天台宗正僧正也円徳院勸修院ノ隱居所也社領千石御朱印地ナ

リ一山ニ配分ス

寶光院 二十七坊

中院 廿四坊

奥院 二十二坊

都テ五十三坊アリ此外祢宜職十二人アリ

或人曰此山往古ニハ神主祢宜計ニテ唯一神道ヲ以テ神ニ仕  
フ其後山伏一山ノ夏ヲ司ル其後天台宗ノ僧別當職ニナル往  
昔ノ乱世ニ如此成行シ也今ノ祢宜共ハ往古根本ヨリ伝来ノ  
者共ノ末也當山神主持ナルヘキ夏勿論也ト云々、

観音堂ハ巖ノ右ニアリ前ニ滝アリ参詣ノ人垢離スル所也此  
木夏ハ氷ノ如ク冬ハ湯ノ如シ

(以下、「拾芥抄」(或書)、「古語拾遺」(岩戸開きの段)、  
「本朝神社考」、「元亨釈書」(釋長明)、「善光寺紀行」など  
諸本よりの引用あるも略す)

註 国立国会図書館蔵の「行囊抄」の内「越遊行囊抄 五」

より

注 「半茅? (末に注) 也」としておいたが、「?」は  
次の画像の字にあたる。

半茅膏也